平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	各種健（検）診に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	1	2	
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	健康増進課			
施策	116健康を支える保健・医療の充実	担当課室長	菅井　智美			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	40歳から70歳までの5歳ごとの節目年齢に肝炎ウイルス検診勧奨通知を実施する。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	早期治療に繋げるため、肝炎ウイルス検診陽性者フォローアップ事業を開始するとともに、各検診の精密検査未受診者に受診勧奨を行う。
②①に基づく取組み結果	9,586人分通知を行った。受診者が619人から1,364人に増加した。前年度比745人、120%の増。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内に住民登録があり、健康増進法に基づく対象年齢の者	意図（対象をどうするのか）	生活習慣病の予防、疾病の早期発見、早期治療を推進する。
②事務事業の概要	がん疾患等の早期発見、早期治療を促進し、市民の健康保持と増進を図るために各種健（検）診を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	高齢化や都市化などによる生活習慣病増加の中、予防、疾病の早期発見、早期治療を目的として、各種健（検）診を開始。人間ドック等の利用が増え、受診者の減少がみられるが、高齢化や経済状況により、市の検診を希望する者も多い。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	各種健（検）診を別添資料のとおり実施した。

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	胃・大腸・胸部検診受診率	17.2	16.5	15.4	%	業務取得
ii	乳がん・子宮がん検診受診率	17	16.8	12	%	業務取得
iii	肝炎ウィルス検診受診率（40歳）	27.6	26.7	23.2	%	業務取得

③事務事業のコスト

	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳 金額（千円）	内容	平成30年度予算
事業費（千円）	91,354	91,512			113,835
国支出金（千円）	256	345	66,031	健（検）診委託料	393
県支出金（千円）	2,048	3,241	13,707	賃金	5,563
市債その他（千円）	8,067	7,692	5,405	撮影機器使用料	8,590
一般財源（千円）	80,983	80,234	2,141	医薬材料費	99,289

Ⅳ　評価・検討

①課題	高齢化や国等から示される検査内容の変化、受入医療機関等の状況により、検診実施体制を今後どのようにしていくかが課題である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	疾病の早期発見、治療により市民の健康保持につなげるものであり、効果を精査・検証しながら進める必要がある。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績			0	当初	0	H28からの繰越	
				H28⇒29繰越			
③達成状況				補正		現年分	
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成30年度への繰越額（単位；千円）					

各種健（検）診の実施状況（２９年度）

名　　称	集団検診受診者数	個別検診受診者数	合　　計
健康診査（医療保険未加入者）		80人	80人
胃がん検診	3,984人	623人	4,607人
大腸がん検診	6,693人		6,693人
乳がん検診（マンモグラフィー）	3,399人		3,399人
うちクーポン券対象	295人		295人
乳がん検診（エコー）	466人	7人	473人
子宮頸部がん検診		2,560人	2,560人
うちクーポン券対象		55人	55人
子宮体部がん検診		125人	125人
胸部検診	6,192人		6,192人
肝炎ウイルス検診		1,364人	1,364人

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	予防接種に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	1	2	
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	健康増進課			
施策	116健康を支える保健・医療の充実	担当課室長	菅井　智美			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	接種率向上のため、必要な周知、接種勧奨をする。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	接種率向上のため、必要な周知、接種勧奨をする。
②①に基づく取組み結果	麻しん風しん予防接種、二種混合予防接種はチラシ配布、個別勧奨通知などの周知、接種勧奨を5回ずつ行った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	予防接種法で定められた対象者及び市長が対象とする者	意図（対象をどうするのか）	予防接種で防げる伝染のおそれがある疾病の発生及びまん延を予防する。
②事務事業の概要	感染症の発生及びまん延を予防するために予防接種を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	予防接種は感染症対策上極めて重要な役割を果たしてきた。感染症の流行やワクチンの効果及び副反応等の見直し、新たなワクチンの開発等により、接種制度の改正がある。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果：乳幼児、児童、生徒対象分と高齢者分の予防接種を別添資料のとおり実施した。

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	乳幼児予防接種率	100	96.3	98	%	業務取得
ii	児童生徒予防接種率	51.1	48.8	51.2	%	業務取得
iii	高齢者インフルエンザ予防接種率	41.5	43.2	41.7	%	業務取得

③事務事業のコスト

	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳 金額（千円）	内容	平成30年度予算
事業費（千円）	238,848	232,871			273,289
国支出金（千円）			230,624	予防接種委託料	
県支出金（千円）			829	印刷製本費	
市債その他（千円）			699	非常勤職員賃金	
一般財源（千円）	238,848	232,871	526	予防接種費用助	273,289

Ⅳ　評価・検討

①課題：制度の改正は、多々あり、急遽ということもある。予算も含め、迅速な対応が必要。

②評価

i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		

③上記評価の理由：伝染のおそれがある疾病の発生及びまん延を予防するため、効果を精査・検証しながら進める必要がある。

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画		計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績			0	当初		0	H28からの繰越
				H28⇒29繰越			
③達成状況				補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成30年度への繰越額（単位；千円）					

２９年度

予防接種のうち、乳幼児、児童、生徒対象分

名　　称	接種者数（委託分）	接種者数（償還払い分）
日本脳炎	3,268人回	2人回
麻しん風しん	1,610人回	2人回
ＢＣＧ	737人回	
二種混合	849人回	
不活化ポリオ	63人回	
四種混合	3,001人回	7人回
子宮頸がん予防ワクチン	0人回	
ヒブワクチン	3,002人回	15人回
小児用肺炎球菌ワクチン	3,006人回	15人回
水痘ワクチン	1,419人回	1人回
Ｂ型肝炎ワクチン	2,230人回	10人回
三種混合	1人回	

予防接種のうち高齢者対象分

名　　称	接種者数（委託分）	接種者数（償還払い分）
高齢者インフルエンザ	12,273人回	24人回
高齢者用肺炎球菌ワクチン	1,204人回	3人回

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	乳房レントゲン機器更新事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	1	2	○
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	健康増進課			
施策	116健康を支える保健・医療の充実	担当課室長	菅井　智美			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	乳房レントゲン機器１台の撤去・取付	③平成30年度に取組む改革・改善内容	平成29年度で終了のため、なし。
②①に基づく取組み結果	８月１１日に撤去、８月２２日設置が完了し、８月２８日より稼働、８月２９日に機器の変更届を保健所に提出した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内に住民登録があり、健康増進法に基づく対象年齢の者で、40歳以上の女性	意図（対象をどうするのか）	乳がん検診（マンモグラフィ撮影）の精度を保ち、向上させ、安心して受診できる。
②事務事業の概要	平成29年度の検診（集団）のない期間に、乳房レントゲン撮影機器の入れ替えを行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	マンモグラフィー機器などの進化により、より精度の高い検査が行えるようになってきた。しかし、経年とともに画質の劣化なども考慮していかなければならない。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	乳がん検診（マンモグラフイー）受診者が3,209人から3,399人に増加。前年度比190人、6%の増。

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	乳がん検診（マンモグラフィー）受診者数	3,114	3,209	3,399	人	業務取得
	ii	乳がん検診（集団）がん発見率	0.2	0.3	0.3	%	業務取得
	iii					%	業務取得

③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
			金額（千円）	内容	
事業費（千円）	0	2,442			0
国支出金（千円）			2,442	乳房X線撮影装置使用料	
県支出金（千円）					
市債その他（千円）					
一般財源（千円）		2,442			

Ⅳ　評価・検討

①課題	機器の更新により、精度の向上が図られた。より高い精度での検診の継続実施。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	1終了
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	若年化している乳がん検診の早期発見に適しているマンモグラフィーを精度の高い機種に更新し、入札から設置までが計画通りに進んだ。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画	機器リース	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	機器１機の入れ替え	3,694	3,694	当初	3,694	2,442	H28からの繰越 0
				H28⇒29繰越			
③達成状況				補正			現年分 2,442
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成30年度への繰越額（単位；千円）	0				

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	フッ化物洗口事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	1	3	○
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	健康増進課			
施策	116健康を支える保健・医療の充実	担当課室長	菅井　智美			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	小学2、3、4年生を6月から継続実施、小学1年生に教育と洗口指導後、2学期からフッ化物洗口を週に1回実施する。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	小学2～5年生を6月から継続実施、小学1年生に教育と洗口指導後、2学期からフッ化物洗口を週に1回実施する。
②①に基づく取組み結果	小学2～4年生を6月から継続実施。1年生の保護者に希望調査を行い、1年生に健康教育と洗口指導を実施し、2学期より洗口を開始した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	園児及び学童、生徒	意図（対象をどうするのか）	永久歯のむし歯を予防する。
②事務事業の概要	保育園・幼稚園・小学校・中学校特別支援学級においてフッ化物洗口を行い、生涯むし歯になりにくい強い永久歯をつくる。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	近年、子どもの貧困問題が増加しており、むし歯と貧困の関係も指摘されている。全国でのフッ化物洗口の実施施設数・実施人数は、年々増加しており、平成14年度は2,951施設（303,182人）だったが、平成28年度には12,103施設（1,272,577人）と14年間で4倍以上に増加している。本市における対象児の実施希望者の割合は99.3%であった。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	保護者や学校関係者の理解のもと、フッ化物洗口を全校の1年生で、希望者に対して開始することができた。また、2・3・4年生及び保育園・幼稚園・中学校特別支援学級において継続実施することができた。（詳細は、別添資料のとおり）

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	12歳児の一人当たりのむし歯数	0.66	1.07	1.07	本	鎌ケ谷市学校保健統計
ii	12歳児のむし歯のない者の割合	69.2	51.8	64.8	%	鎌ケ谷市学校保健統計
iii	フッ化物洗口実施人数	3,769	4,635	5,431	人	業務取得

③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）	2,163	2,361	金額（千円）	内容	3,337
国支出金（千円）			888	非常勤職員賃金	
県支出金（千円）			569	委託料	
市債その他（千円）			475	医薬材料費	
一般財源（千円）	2,163	2,361	343	消耗品費	3,337

Ⅳ　評価・検討

①課題	洗口が全小学校全学年で実施できるようにするため、関係者の理解を得ながらシステム構築する。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	7拡充
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	子どものむし歯予防は、歯科医療費の抑制につながり、有効性が高い。平成31年度まで毎年1学年ずつ対象を拡大。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	幼稚園、保育園、、小学校（1～4年生）、中学校特別支援学級継続
②計画に対する事業実績	幼稚園、保育園、中学校特別支援学級、小学校（1～4年生）において実施した。
③達成状況	完了
④未完了・非着手の理由	

平成29年度事業費の状況（単位；千円）

計画事業費	予算額			決算額		
3,311	3,311	当初	3,311	2,361	H28からの繰越	0
		H28⇒29繰越	0		現年分	2,361
		補正	0			
		流用・充当	0			
平成30年度への繰越額（単位；千円）			0			

フッ化物洗口事業（２９年度）

-実施計画事業-

【事業の成果】

（１）フッ化物洗口実施施設数及び実施人数

	施設数	人数
保育園	8	383 人
幼稚園	8	1,098 人
小学校	9	3,908 人
中学校（特学）	3	42 人
合計	28	5,431 人

※小学校はモデル校（北部小）の全学年と、モデル校以外の小学校1～4年生及び全校の特別支援学級で希望者に実施

（２）１年生・特別支援学級及び教職員に対するフッ化物洗口指導を実施
９校　　１０３９人

（３）１年生・特別支援学級及び教職員に対する洗口開始時の見守りを実施
９校　　９６５人

（４）就学時健康診査時に保護者説明会を実施
９校　　保護者　　８９１人